



35mm

令和8年度 優秀映画鑑賞推進事業



昭和11年から平成18年にかけて制作された日本映画の中から、映画史を代表する作品をご覧ください！

劇場で上質な映画を見よう

映画機

による

特別上映会

上映作品

「羅生門」
【デジタル復元版】



1950年 / 白黒 / 88分
監督：黒澤明 主演：三船敏郎

「座頭市物語」



1962年 / 白黒 / 96分
監督：三隅研次 主演：勝新太郎

2026年 8月 21〔金〕・22〔土〕 会場 松本市波田文化センター ACTHALL アクトホール

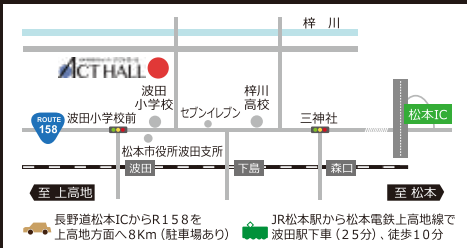
2日間とも 10:30「羅生門」 / 14:00「座頭市物語」 ※開場は開映の30分前

チケット
取り扱い
全席自由席

1作品 1,000円【税込】（二本立てではございません）
[電話・窓口] 松本市波田文化センター
0263-92-7501 (9時~17時) ※月曜と祝日の翌日は休

問
合
わ
せ

松本市波田文化センター
長野県松本市波田10106-1
TEL:0263-92-7501
FAX:0263-92-7505



主催 一般財団法人松本市芸術文化振興財団 / 国立映画アーカイブ
特別協力 文化庁 / 一般社団法人日本映画製作者連盟 / 全国興行生活衛生同業組合連合会 / 松竹株式会社 / 東宝株式会社 / 東映株式会社 / 株式会社 KADOKAWA
後援 松本市 松本市教育委員会

国立映画アーカイブでは、広く皆様に優れた日本映画を鑑賞していただくとともに、映画保存への理解を深めていただくことを目的に、平成元年度から「優秀映画鑑賞推進事業」を実施しております。

本事業では、昭和11年から平成18年にかけて製作された日本映画の中から、映画史を代表する作品や多くの人々より好評を得た作品を選んで、国立映画アーカイブ所蔵の35mmフィルムにて、全国各地で上映いたします。また本年度は試行的に、デジタル上映プログラムも映画会社の協力を得て導入しています。

現在では稀少なフィルムでの上映や、スクリーンでの鑑賞体験を通して、皆様に映像芸術の原点となる映画と映画文化の素晴らしさをご理解いただき、本事業が地域における上映活動や文化活動を活性化させる一助となることを期待しております。

羅生門(デジタル復元版)

[1950年 大映(京都)]



(白黒/スタンダード/ドルビーデジタル(モノラル)/88分)

黒澤は本作について次のように述懐している。「この作品の根本といえば、要するに、無声映画に帰ってみようと思ったことですね。……トーキーになって失われた映画の美しさをもう一度見つけようという気持ちだった。……映画ももう一度単純化しなければならぬのじゃないか、というのがあの試みだった」。森の中でおきた殺人事件をめぐる、8人だけの登場人物で演じられる不条理劇。芥川龍之介の「藪の中」を、脚本家を志望していた橋本忍が脚色、黒澤の助言で同じ作家の「羅生門」が加えられた。

[スタッフ]

原作 芥川龍之介
脚本 橋本忍
脚本・監督 黒澤明
撮影 宮川一夫
照明 岡本健一
録音 大谷巖
音楽 早坂文雄
美術 松山崇

[出演者]

多襄丸 三船敏郎
真砂 京マチ子
杵売 志村喬
金沢武弘 森雅之
旅法師 千秋実
下人 上田吉二郎
巫女 本間文子
放免 加東大介

絶対真理の不在と人間不信の主題は戦後間もない欧米で評価され、翌年のヴェネチア国際映画祭でグランプリ、そして米・アカデミー最優秀外国語映画賞を受賞した。1949年に湯川秀樹博士がノーベル賞を受賞し、敗戦後の日本に朗報をもたらしたが、黒澤のそれも日本映画の芸術水準の高さを海外に知らしめただけでなく、わが国の国際理解に大きく貢献した。「キネマ旬報」ベストテン第5位。

座頭市物語

[1962年 大映(京都)]



(白黒/シネマスコープ/モノラル(濃淡型)/96分)

勝新太郎の終生の当たり役となった「座頭市」シリーズの第1作。『不知火検校』(1960、森一生監督)で悪事を尽くす盲目の按摩を演じて新境地を開いた勝が、僧形のやくざで盲目の居合斬りの名手・座頭市を見事に体現し、以後26作に及ぶ映画シリーズの原型を築いた。原作は子母沢寛の随筆集に収められた短篇で、『不知火検校』を担当した犬塚稔が、天保水滸伝を下地に平手造酒と座頭市の心の交流を軸とする脚本に仕上げた。切れの良いアクションとともに座頭市の悲哀と怒りを全身で表現した勝新太郎と、

[スタッフ]

原作 子母沢寛
脚本 犬塚稔
監督 三隅研次
撮影 牧浦地志
照明 加藤博也
録音 大谷巖
音楽 伊福部昭
美術 内藤昭

[出演者]

座頭市 勝新太郎
平手造酒 天知茂
おたね 万里昌代
飯岡乾分 南道郎
笹川繁造 島田竜三
松岸の半次 三田村元
飯岡助五郎 柳永二郎
繁造女房お豊 毛利郁子
半次女房お芳 真城千都世

座頭市が惚れ込むニヒルで孤高の浪人を演じた天知茂のクールな魅力が炸裂。監督の三隅研次と撮影の牧浦地志が、陰影に富んだモノクロームの映像で孤独なアウトローの世界を描き切った。下総利根川流域の飯岡助五郎親分のもとで草鞋を脱いだ座頭市は、客分扱いで過ごすうちに、病身の浪人・平手造酒と知り合い、心を交わしあう。ところが平手は飯岡一家の宿敵・笹川繁造親分の食客であった…。